

1 学校教育目標

人権尊重の精神を基調とし、広い視野と深い知識、思いやりの心と規範意識をもった心身ともに健康な中学生の育成
「生徒行動指針」○自ら学ぶ ○思いやる ○鍛える

2 めざす学校像、児童・生徒像、教師像

○学校像	今年度生徒に発するメッセージは、『未知のことにも果敢に挑戦しよう！』とした。そのために、『自己効力感』をキーワードとして授業をはじめとした全ての教育活動を実践する。「自己効力感」とは、「自分ならできると信じる」感情である。いわゆる「自信」である。人間は誰しも未知のことには不安を抱くものである。そのようなときでも「大丈夫だ、できるはずだ」と考え、行動につなげられる生徒の育成を目指す。
○児童・生徒像	失敗を恐れずに何事にも挑戦し、「学び」を日常の生活と結びつけ、自信をもって未知の世界にも歩み出せる生徒 ＜「生徒行動指針」に基づいた具体的な生徒像＞ ○習得した知識を実生活に生かすような行動を自ら行い、意欲的に経験を積み上げていく生徒 ○自分の力を学級や学年・家族や地域のために進んで役立てようとする生徒 ○病気に負けない、心身ともに健やかな体を身に付けた生徒
○教師像	○生徒・保護者、地域の信託に応える教師 ○自らの生き方をもって生徒を導くことのできる豊かな人間性をもった教師 ○組織として迅速に動くことができる教師

3 学校の現状及び前年度の成果と課題

1 学校の現状

- 1) 生徒は元気に挨拶ができ、授業態度も良く落ち着いた学校生活を送っている。
- 2) 学校が楽しい、授業が楽しいと思っている生徒が多く、授業に真剣に取り組んでいる。
- 3) 学校行事に際して、自らの役割を意識した取り組みができており、行事後の達成感も高い。
- 4) 未知の事柄に一步を踏み出す勇気がない。

2 前年度の成果

- 1) 学習に課題のある生徒に対する補習の場として、「キャッチアップルーム」を設け、対象生徒の学習意欲を高めることができた。
- 2) 「スマイルルーム」と「キャッチアップルーム」の運用についてのシステムを構築し、不登校対応と予防に対する体制が整った。
- 3) 「サタデースクール」を、コロナ禍以前の形に近い形で実施できた。
- 4) 指導力向上中核校の研究で教員の授業改善への意識が高まった。

3 前年度の課題

- 1) 区学力調査における3科平均正答率が63.9%から61.0%に減少した。
- 2) 予定していた学習支援ボランティアが確保できず、放課後補習をはじめとした学習支援が十分機能しなかった。
- 3) 生徒の変容を客観的に計る指標を構築し、実効性のある検証を行う必要がある。

4 重点的な取組事項						
	内 容	実施期間（年度） R: 令和				
		R3	R4	R5	R6	R7
1	学力向上アクションプラン	◎	◎	◎	○	○
2	キャリア教育の推進	◎	◎	◎	◎	◎
3	不登校・不適応対応	◎	◎	◎	◎	◎
4	生活指導の充実	◎	◎	◎	◎	◎

5 令和5年度の重点目標

重点的な取組事項－ 1		学力向上アクションプラン							
A 今年度の成果目標			達成基準 (目標通過率)		実施結果 (通過率結果)		コメント・課題		達成度 ◎○△●
基礎学力の確かな定着と家庭学習の質的向上			令和5年度の目標通過率3科平均 63.0%		自己評価の際に記入				
B 目標実現に向けた取組み									
新・継	アクション プラン	対象学年 実施教科	頻度・ 実施時期	具体的な取り組み内容 (誰が、何を、どのように)	達成確認 方法	達成目標 (＝数値) (いつ・何を・どの程度)	実施結果	コメント・課題	達成度 ◎○△●
1 継続	補充・補習 の充実	国語 数学 英語	通年	【取組内容】 ・4月に実施した学力調査の正答率の低い単元においてA I ドリルを活用して定着を図る。 ・学年全体として習熟の低い単元では、授業を通して学び直しを行う。 ・放課後補習の年間指導計画を立て、意図的計画的に補習を行う。 【ねらい】 ・入試に耐えうる基礎基本の定着	2月に実施する到達度確認テスト	各教科とも4月の正答率を上回る	自己評価の際に記入		

2 継続	授業改善	全教科	通年	【取組内容】 - 授業展開を全教科等で統一し、導入 5 分、展開 35 分、まとめ 10 分とし、単元を貫く学習目標を意識して、足立スタンダードに基づく授業を実践する。 【ねらい】 1 時間 1 時間の授業で生徒が身に付けるべきことを明確にすることで、学習内容の確実な定着を図る。	区学力調査の「学習や生活についてのアンケート」と Web Q U の「学校生活意欲尺度」の設問 NO. 7	『授業が楽しい』の設問に対する肯定的回答 9 0 % 以上 『授業がわかる』の設問に対する肯定的な回答 7 0 % 以上	自己評価の際に記入		
3 継続	学習コンテスト	国語 数学 英語	各教科 年 1 回	【取組内容】 - 国数英 3 教科で基本的な知識を問う問題に取り組ませる。 - 各コンテスト前に取り組み週間を設け、A I ドリルも活用する。 【ねらい】 - 学習意欲の喚起	3 教科の学習コンテスト	各教科の合格率 国語 9 0 % 数学 8 0 % 英語 8 0 %			
4 継続	サタデースクール	全教科	通年	【取組内容】 - 土曜授業のない土曜日に自学自習による補習 【ねらい】 - 自学自習の習慣を身に付けることで家庭学習の習慣化を補完する。 - 開かれた学校づくり協議会の支援者や学生ボランティアに気安く質問できることで、家庭学習の質的向上を促す。	サタデースクール参加登録者数と出席状況	登録生徒数 3 5 名以上 年間延べ参加人数 3 5 0 人以上			

重点的な取組事項－２		キャリア教育の推進			
A 今年度の成果目標		達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度
昨年度に引き続き、生徒の自己有用感の涵養を図るとともに、自己効力感の涵養を図り、自信をもって生活できる生徒を育成する		区学力調査の「学習と生活についてのアンケート」と WebQ U の設問 NO. 8、NO. 16、NO. 21～23 で肯定的な回答及び G S E S（一般性セルフ・エフィカシー尺度）	自己評価の際に記入		
B 目標実現に向けた取組み					
項目	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
自己有用感の涵養	区学力調査の「学習と生活についてのアンケート」において、『今の学級をよりよい学級にしたいと思う』と『学級のみんなはお互いに協力し助け合っていた』の設問に対する肯定的な回答が、どちらも 85% 以上	・中学生という発達段階に応じた係活動を意図的に取り組ませたり、学校行事の運営を通して集団における自己の役割を自覚させる。 ・学級活動を中心とした特別活動を通して、生徒相互の良さを認める活動を充実させる。	自己評価の際に記入		
自己効力感の涵養	WebQ U の学級満足度尺度と学校生活意欲尺度の設問 NO. 8、16、21、22、23 の肯定的な回答がいずれも 75% 以上 G S E S 夢デザインシートの活用	・各教科も含めた全教育活動の年間指導計画を「キャリア」の視点から再編する。 ・作成した年間指導計画は各学年の廊下に掲示し生徒に可視化する。 ・十二中で目指すキャリア目標を各教室に掲示し生徒に意識化を図る。			
将来への希望	区学力調査の「学習と生活についてのアンケート」の『将来の夢がある』の設問に対する肯定的な回答が 73% 以上	・全教育活動において、キャリア発達を促す教育の実践			

重点的な取組事項－ 3		不登校・不適応対応			
A 今年度の成果目標		達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度
不登校出現率の減少		不登校出現率 3 % 以下	自己評価の際に記入		
B 目標実現に向けた取組み					
項目	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
不登校・不適応生徒を受け入れる学級の雰囲気づくり	W e b Q Uにおける学級満足度 5 0 % 以上	・学級活動、道徳科の指導を通して、学級の中に生徒の居場所を確保するとともに、各学級、学年で生徒の活躍の場を設定し相互に認め会える雰囲気を醸成する。	自己評価の際に記入		
学習に困難さを抱える生徒の支援	W e b Q Uにおける『学習意欲』に関する設問の肯定的な回答	・「キャッチアップルーム」での個別支援を通して、学習に課題のある生徒の学習意欲を喚起する。 ・学級活動を通して生徒が相互に学び合う関係を構築し、どの生徒も意欲的に学習に取り組めるようにする。			
組織的な対応	特別支援教育推進委員会 年 3 5 回開催	・毎週木曜日の 2 時限目に特別支援教育推進委員会を設定し、不登校、不適応生徒の情報を共有し、支援を必要とする生徒を全校で組織的に支援する。 ・特別支援教育推進委員会に地元の民生児童委員に加わっていただき、養育困難家庭の支援を行う。			

重点的な取組事項－４		生活指導の充実			
A　今年度の成果目標		達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度
生徒の内面からの変容を促し、自ら学校生活を豊かにしようとする姿勢を育む		W e b Q U、ふれあい月間のアンケートにおけるいじめ発生件数	自己評価の際に記入		
B　目標実現に向けた取組み					
項目	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
いじめの早期発見・対応	・W e b Q Uにおける侵害行為認知群１０％以下 ・学級不満足群１５％以下	・W e b Q Uをかつようし、いじめの早期発見に努め、発生したいじめについては「いじめ防止基本方針」に基づく校内「いじめ防止対策委員会」を中心に、全校で組織的にその解決にあたる。 ・生徒会活動や学級活動を通して、生徒自らの手でいじめを抑止しようとする態度を育てる。	自己評価の際に記入		
体罰の根絶	体罰発生件数０	・年間を通じて教職員の服務に関する研修を繰り返し、生徒の内面にとどく指導ができるようにする。そのために必要な研修を意図的計画的に実施する。 ・W e b Q Uについての研修を実施し、正しく分析し、適正に活用できる力を全教員に身に付けさせる。			

6 まとめ

(1) 今年度の成果と次年度に向けた課題及び解決の方向性

自己評価の際に記入します。
経営計画の策定段階では、このページは行数を減らして圧縮したり、ページ自体を削除したりした上で、公表していただいても差し支えありません。

(2) 保護者や地域へのメッセージ

(3) その他（学校教育活動全般について）